明日の京都　文化遺産プラットフォーム

京都　神と仏の歳時記

第二回

追儺式（ついなしき）

二月三日は節分――。
京都の人々は神社仏閣めぐりに余念がなく、
柊に刺した鰯の頭を玄関に掲げ、豆をまく。
季節の変わり目は、邪気が入りやすいとされ、
宮中では祓いの追儺式が行われていた。
やがて邪気は鬼として可視化されるようになり、
庶民の間で豆まきによる鬼退治が広まっていった。

写真・文　秋尾沙戸子

明日の京都
文化遺産プラットフォーム

廬山寺では、赤鬼が松明と宝剣、青鬼が大斧、黒鬼が大槌を持って足拍子をとりながら堂に入り、護摩供の邪魔をする。各々、貪欲、怒り、愚痴の化身である

【村上天皇の御代　良源の鬼退治】

節分――。立春前の二月二日三日、京都の人々は寺社めぐりに余念がない。祓いの儀式に参列し、福豆を受けるためだ。

古来より季節が生まれ変わるときには邪気が入りやすく、祓いが必要とされてきた。節分そのものは年四回あるのだが、中でも陽の気に変わる立春前が重要視され、現代では、邪気を鬼に見立てて、豆で退治するのが一般的だ。つまり、鬼とは邪気を「可視化」した存在なのである。

ユニークなのは、廬山寺の鬼法楽（鬼踊り）だ。太鼓と法螺貝の音を合図に、赤、青、黒、三匹の鬼が特設舞台に現れ、それぞれ松明と宝剣、大斧、大槌を持って、足拍子をとりながら大師堂に入る。中で行われている護摩供を邪魔しようとするが、護摩供の秘法、邪気払いの法弓、蓬莱師と福娘に撒かれる蓬莱豆と福餅に退治される。その後、東西南北中央の五か所に邪気払いの弓が放たれ、改心した鬼は人々の病気などの災いを取り除く加持を行う。

鬼法楽の原型は、廬山寺の開祖元三大師良源が宮中で鬼退治をした故事にある。比叡山中興の祖でもある良源師は十世紀、村上天皇の御代に天下泰平を祈る三〇〇日の護摩供を任されていた。護摩供の間、悪鬼が表れて妨害しようとしたが、良源師が法具（独鈷と三鈷）を使って退治した。ここでの悪鬼は、目に見えない邪気をいう。

廬山寺で節分の鬼法楽が現在の形になったのは大正四年。良源師が「魔を滅す」力があったことから、邪気払いに「マメ」が用いられている。

宮中で豆が用いられたのは室町時代だが、豆が鬼毒を殺し、痛みを止めると中国の医学書に書かれたことが説得力を与えたのか、鞍馬で毘沙門天のお告げに従い鬼退治に成功した説の影響か、定かではない。庶民に広まるのは江戸時代になってからである。

現在、柊の小枝に焼いた鰯の頭を刺して玄関に掲げる家もあるが、これは邪鬼が柊の葉の棘に刺さって痛がり、鰯の悪臭に驚いて退散すると信じられているからだ。土佐日記には、正月の門口に飾った注連縄に、柊の枝と「なよし」（鰯）の頭を刺していたと記され、やはり平安貴族の風習が後に庶民に広まったものである。

「追儺式」による邪気払いの法弓

廬山寺では改心した鬼が加持を行う

吉田神社では、鬼が去った後、上卿が桃弓で葦矢を放ち、疫鬼を追い払う。古来より桃は魔を祓う霊力が宿ると信じられてきた

【宮中の追儺式を忠実に再現】

京都の鬼門（東北、丑寅）に位置する吉田神社には毎年、大勢の老若男女が押し寄せる。二月二日の午後六時、境内はしばし閉鎖され、宮中さながらの追儺式が執り行われる。

陰陽師が祭文を読み上げると、黄金四つ目の方相氏の面をつけた大舎人が右手に矛、左手に盾を持って現れ、松明を持った侲子を従えて鬼を脅かし追い出す。上卿と二人の殿上人が、桃の木の弓で葦の矢を放ち、厄を祓い清めた。

平安時代、大舎人が四つ目の面を着け、百人ほどの侲子とともに「鬼やろう、鬼やろう」と大内裏をまわったというから、さぞや賑やかだったに違いない。

徒然草には「追儺から四方拝に移り変わる様は、風情がある。大晦日の夜、真っ暗な中で松明を掲げ（中略）そこかしこを騒いで回っているが、夜明け間近になって、静けさを取り戻すようになる頃、過ぎ去り行く年の名残に、心細さを感じる」とある。吉田兼好の父は吉田神社の神職でもあった。

四方拝はいまでも元旦早朝に執り行われる宮中祭祀で、平安時代には前日の大晦日に追儺式が行われていた。遣唐使により伝えられた中国の儀式をそのまま真似た形だ。日本でこれがいつ節分行事となったかは明らかでない。

注目すべきは、祓いに桃の弓が用いられていることだ。桃には霊力が宿ると信じられ、宮中では祓いに重用された。古事記にある、イザナギが黄泉の坂道で桃の実を鬼に投げつけて逃げることに成功した話が影響しているのだろう。

鬼は、廬山寺では煩悩の化身、吉田神社では人間の苦悩の姿と捉える。鬼を全否定するのではなく、悪さはしないでと願いつつ、厄は小さく、福は大きく自分の中で育てて開運へとつなげていく。追儺とは実は受容と共生の確認かもしれない。

「方相氏」に扮した大舎人が鬼を払う

黄金四つ目の「方相氏」。手には盾と矛

あなたは一〇〇年先の京都の姿を想像できますか？

明日の京都文化遺産プラットフォームは、一〇〇年先に思いを巡らせ、京都の文化遺産を守り育み、創造することを目指しています。

いま世界中から人びとが京都に押し寄せてくるのはなぜか。平安遷都から千二百年余。先達が守ってきた歴史と文化が、そこに存在しているからです。昭和の戦火を免れ、神社仏閣も城も京町家も燃え尽くされなかったのは、実に幸運なことでした。しかしながら、開発の波や昨今の自然災害を受け、これらを守り通すことは容易なことではありません。

当団体の趣旨は、古都京都の文化遺産を毀損することなく後世に継承すること、「文化遺産」に現代的な課題に応える価値を見出し、未来に向けてその存在意義を高めていくこと、一〇〇年先を見据え、新たに「未来の文化遺産」を創造することにあります。

趣旨に賛同してくれているのは、ユネスコ前事務局長、伝統芸能の家元たち、京都仏教会、京都府神社庁、代々続く暖簾や家を守り継ぐ人々、作家、大学関係者、京都府、京都市などなど。京都のことを心から愛し、京都の未来を心から案じている人々が、立場を超え、お互いを尊重しつつ、多様性に富み、複眼的な意見を交わしながら運営しています。

当団体は、５つの事業領域（①新たな文化遺産の創造、②文化遺産の保存と継承、③京都の「伝統文化」の保存と活用、④文化遺産を災害から守り育てる⑤文化遺産に関する教育・研究と人材育成）に沿って、活動しています（左図参照）。

誇るべき事業のひとつは、世界遺産「古都京都の文化財」に登録される社寺城が集い、景観や防災などについて検討するネットワーク会議を開催。同じ悩みや問題を抱えている文化財所有者をつなげ、一堂に会して話し合う場を提供していることでしょう。また、そうした文化財所有者が課題を一般市民と共有する場として「明日の京都講座」も主催。昨年度は宇治の平等院で開かれました。

未来を担う次世代へ継承すべく、大学とも連携。文化遺産を学生の学びの場として開いてもらうよう、寺社に協力を促しています。また、小学生には、百人一首とお茶会を体験学習する場も提供しています。

中核事業として毎年、フォーラムを開催。一〇〇年先を見据えた展望と方策を考え、提言しています。昨年度は、「古都の借景」をテーマに、京都の文化的な景観と今後の課題について考察を深めました。

また、無形遺産シンポジウム「日本人の棲まい方」では、伝統工法と匠の技を通して日本建築の今後を考究。ブルーレイ「未来への歩み」完成披露シンポジウムでは、京商家杉本家の慣らいと暮らしを通して京町家維持の難しさを議論しました。このブルーレイは、京都の有形無形文化遺産を映像として記録する事業の産物です。

根底にあるのは、文化遺産への敬意と先人への感謝の想い。全ての人々が日々の暮らしの中で京都の歴史の重さを感じ、それをかけがえの無いものとして捉えられることを当団体は目指しているのです。

今年度の一般公開事業

◆フォーラム「水のみやこ 京都の明日」
平成三十年十月九日火曜日十三時半

◆明日の京都講座「旧嵯峨御所大本山大覚寺」
平成三十一年二月十九日火曜日十三時半

◆無形遺産シンポジウム「吉田孝次郎の世界」
平成三十一年三月九日土曜日十四時

明日の京都
文化遺産プラットフォーム

京都駅前に平安京羅城門復元模型が登場

平安京の表玄関「羅城門」。その十分の一模型は、平成六年に制作され、長らく京都駅周辺ビルの地下に保管されていました。これを、平成二十八年十一月二十一日、京都駅北口広場に展示し京都駅の新しい名所となっています。ぜひ、お立ち寄り下さい。

【お願い】
平安京羅城門復元模型の維持管理にご支援をお願いしております。詳細は「明日の京都ＨＰ」にて。
http://tomorrows-kyoto.jp/（明日京／検索）

■平安京羅城門復元模型が京都駅北口広場東に展示されています。ぜひお立ち寄りください

■平成三十年十月八日発行
■発行　明日の京都　文化遺産プラットフォーム事務局
〒604-8520
京都市中京区西ノ京朱雀町一番地
立命館大学 朱雀キャンパス
（総務部　社会連携課内）
TEL 075・813・8166
FAX 075・813・8167

明日の京都ＨＰ